

「通学区の問題点と課題の整理について」 ～通学区の5つの課題について～

〔課題1〕

現状の通学区では、町を分断している。

→町単位になるように考慮した資料（資料●参照）

〔課題2〕

鉄道や交通量の多い幹線道路の横断などにより、登下校時の危険性が高まっている。

→主な道路や鉄道などによる区割りした資料（資料■参照）

〔課題3〕

地域的な偏在により、学校規模の差が拡大している。

→①大規模校（日根野小学校、第二小学校など）では、今後も児童数の増加が見込まれ、教室数や運動場の面積の不足など教育環境の悪化を招く恐れがある。

②小規模校（大木小学校、第三小学校、佐野台小学校など）では、児童数の減少が進み、教育活動における弊害が懸念される。

③教育条件や教育環境に不均衡を生じる。

〔課題4〕

より近い学校があるにもかかわらず、遠方の学校に通学することによる、児童の登下校時の安全性の低下と身体的負担がある。

〔課題5〕

ひとつの小学校から複数の中学校への進学は、児童生徒にとって、中学校進学に伴う学習環境の変化に加え、心理的な負担を強いる恐れがある。